

令和4年度 学校運営に関する学校評価を受けて

東根市立第三中学校
校長 富塚 義幸

本校教育活動（学校経営の重点項目など）に対する保護者アンケート及び生徒アンケートの結果を受けて、本校学校運営についての自己評価を行いましたのでお知らせいたします。お寄せいただいたご意見などを来年度の教育活動に活かすとともに、本校教育活動のさらなる充実を図ってまいります。ご協力ありがとうございました。

◆視点1：学習・授業にかかわること

4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない

※保護者・生徒とも無記名での回答です。 数字 = 上段：保護者（%） 下段：生徒（%）

問	質問内容（生徒にも保護者と同じ内容の問いかけをしています。）	4	3	2	1	4と3の割合		
						R4	R3	増減
1	お子さんは、授業に集中して取り組むことができると言っている。	23	60	12	5	83	90	↘
		40	54	6	0	94	96	↘
2	お子さんは、授業中自分の考えを発表したり、互いの意見を交換したりして、自分の考えを深めることができたと言っている。	22	55	18	5	77	80	↘
		40	46	10	4	86	84	↗
3	お子さんは、授業がわかりやすく、意欲的に取り組めると言っている。	27	47	20	7	73	74	↘
		39	54	4	3	93	93	→
4	お子さんは、家庭学習に必要感を感じて取り組み、学校での学習に活かすことができていると思う。	23	40	25	12	63	61	↗
		26	54	15	4	81	87	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ コロナ感染予防対策を講じつつ、ICT活用や言語活動・協働的な学びを重視した授業づくりによる表現力の向上。
- ・ 生徒の希望制による少人数授業の推進（数学など）。
- ・ 終わりの会で「一日の学びを振り返る」とともに、家庭学習の見通しを立てる時間を設定（学校独自の「ほっとノート」を活用し、授業と家庭学習をつなげて回す取組み）。
- ・ 自ら学ぶ主体性を育成するため、興味・関心を高める教材の吟味と、課題解決の見通しが持てる指導過程の工夫。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 生徒同士が交流しながら、自分の考えを深めたり課題を解決したりする学習に苦手意識を持つ生徒が多いようです。
- ・ 授業の振り返りと家庭学習がさらに結びつく指導や支援が必要だと感じています。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 指導と評価の一体化を図る授業改善により、教師の指導力向上に力を入れていきます。そのために、研修の充実を図り「授業を核にした学校づくり・学校経営」を推進していきます。
- ・ 「ほっとノート」活用の効果を上げるため校内研究に位置付けて取り組んできましたが、生徒の家庭学習の定着、及び学力向上には及んでおりません。次年度は、学力向上の基盤となる学習意欲を喚起できるよう「わかった」「できた」を実感できる授業改善を目指し、生徒が課題意識をもって家庭学習に取り組めるよう改善していきます。

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R4	R3	増減
5	お子さんは、学校に楽しく登校している。	52	35	12	2	87	85	↗
		61	32	6	1	93	94	↘
6	お子さんの学級は、よさが認められ居心地がよく、思いやりのある友だちが多いと思う。	38	43	10	8	82	93	↘
		61	33	4	1	94	99	↘
7	お子さんは、学級の係活動や専門委員会、生徒会活動に積極的に取り組んでいると思う。	58	33	7	2	92	97	↘
		69	24	7	0	93	97	↘
8	お子さんは、部活動に意欲的に取り組んでいると思う。	58	30	7	5	88	82	↗
		67	24	8	1	90	91	↘
9	お子さんは、コロナ感染防止対策を心がけて学校生活を送っていると思う。	68	25	5	2	93	96	↘
		67	28	6	0	94	100	↘
10	お子さんは、学校のきまりや服装、時間等をきちんと守り生活していると思う。	53	40	5	2	93	96	↘
		61	35	4	0	96	97	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 生徒会や学校行事の実行委員会組織を動かすことによって、「自分たちの手でつくる喜び」や「やり遂げた達成感」に結びつける指導と支援（コロナ禍による新たな創造）。
- ・ 定期的な教育相談、自己生活アンケートの実施による生徒に寄り添った指導。
- ・ 「部活動方針」の啓発及び方針（国・県・市・本校）に基づく活動の実践。
- ・ 教職員全員で生徒を見守る温かい生徒指導の構築。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 「楽しく登校している」で、生徒の数値が下がっていること、2と1の評価があることを真摯に受け止めなければなりません。
- ・ 学校行事や常時活動など、with コロナのもと少しずつ新しい形で開放的な活動を実施し、学校全体において生徒の活躍が目立つ年度となりました。しかし、生徒会等の活動に積極的に取り組めなかったという認識を持っている生徒がいる現状を理解していく必要があります。
- ・ 昨年度同様、コロナ禍による学校行事の実施方法を見直したことで、保護者が生徒の姿を参観できたことは、大きな意義がありました。
- ・ 部活動に対する意識に差があるようです。部活動改革によるR5からの任意加入制導入に向けても、スポ少のあり方も含め、検討していく必要があります。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒がより主体的で協働的な学校生活を送れるよう、主体的な生徒会活動に力を入れ、生徒自ら自分たちの学校をよりよくしていこうとする自治力の育成に努めます。そのため、企画・立案から生徒自らが行えるよう話し合いの時間や活動時間を確保するため、部活動改革と合わせて教育課程編成の工夫を行います。また、その生徒の取り組みの様子を保護者により多く発信し理解いただくことにも努めます。
- ・ 部活動改革に向け、すでにR5年度から任意加入制が導入される旨を生徒・保護者に周知しています。新年度から新たな形での活動となるため、生徒の声を聴き、外部コーチやスポーツ少年団の指導者と連携を図り、今後とも適正な部活動運営に努めます。
- ・ クラスでの居心地のよさや相手に対する思いやりについては課題があります。道徳教育の更な

る推進によりこころの教育を図っていくとともに、価値観の違う人同士の間関係の在り方も含めた社会性の育成を、教育活動全体で取り組んでまいります。

◆視点3：教育相談・コミュニケーションにかかわること 上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R4	R3	増減
11	お子さんは、先生方が話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていると言っている。	35	43	17	5	78	88	↘
		49	43	4	4	92	92	→
12	お子さんは、努力したことやよい点を先生方が認め、正しく評価してくれると言っている。	45	37	13	5	82	93	↘
		57	36	4	3	93	95	↘
13	お子さんは、道徳や学級活動、総合や校長講話で、生き方や将来のことについて考えることができたと言っている。	30	47	18	5	77	79	↘
		56	39	4	1	94	92	↗
14	お子さんは、家庭での来客や地域の方々に対して、自ら進んであいさつができています。	38	48	12	2	88	89	↘
		61	31	8	0	92	95	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 毎月1回の「自己生活アンケート」などを通して、情報収集に努め、生徒の思いを教職員間で共有し、教育相談を迅速かつ継続的に実施。
- ・ 「いじめ防止基本方針」に基づく指導実践。いじめにつながる言動への組織的対応と家庭との連携を重視（いじめに関する調査の年2回実施）。
- ・ 市の「いじめ防止サミット」を本校生徒会が主担当として実施。それらの内容を全校集会で共有し、いじめ防止活動を実施。例：「モア スマイル宣言」「ピンクシャツ運動」の実践。
- ・ 毎朝の生徒会生活委員会によるあいさつ運動。職員による立哨活動。
- ・ 校長講話を実施し生徒感想へのコメント記入。その感想を各学年代表一名が全校集会で発表。

◇生徒の実態やアンケートの結果より

- ・ 教職員の生徒に対するかかわりに、肯定的ではない考えをもっている生徒や保護者の割合が高い傾向にあります。信頼される学校を目指し、気を引き締めていく必要があります。また、自己有用感や自己存在感を感じられないまま学校生活を送っている生徒がいることも事実です。
- ・ はきはきとした声で気持ちのよいあいさつをする光景は以前より見受けられ改善しています。しかし、生徒の感覚としては昨年度より低い数値として表れています。あいさつに対する課題意識をもてるようになったと捉えられる反面、さらなる改善も必要であることは事実です。
- ・ 生き方や将来に対する不安を抱えている保護者の方が多いことがわかります。生徒が学習したことを家庭に発信する手段に工夫が必要です。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 計画的な教育相談だけでなく、生徒との日常的な対話を通して「思い」や「心配なこと」を積極的に聴き取り、ともに解決にあたっていける関係性を築きます。
- ・ 生徒の「困り感」を家庭と共有し、直接話し合っ即時対応をしていきます。年度初めの家庭訪問で保護者と担任がしっかり顔を合わせ、情報共有できる関係を築けるようにします。
- ・ 学校で学んだことが社会でどのように役に立つのかを実感できるよう、職場体験や企業訪問等

の学校外での教育活動も重視し、キャリア教育の充実に努めていきます。また、その学びの過程を、保護者にも発信していく工夫をしていきます。

- ・さらなるあいさつの活性化のための方策を生徒会中心で話し合い、あいさつが飛び交う学校で生活することのよさを実感できるようにします。さらに、自分たちの力でよりよい学校をつくり上げたという達成感を味わわせるよう、そのためのプロセスも大切に指導します。

◆視点4：家庭・地域・環境にかかわること

上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R4	R3	増減
15	学校（学年・学級）は、家庭や地域に、学校の取り組みや生徒の活躍の様子について、たよりやマ・メール、ホームページ等でよく伝えていると思う。	38	40	20	2	78	89	↘
		47	44	6	3	92	92	→
16	親として、学級通信や学年通信、学校通信等をよく読んでいる方だと思う。	38	50	8	3	88	82	↗
		56	26	17	1	82	87	↘
17	学校の教育環境が整備され、子どもは生活しやすいと思う。	53	40	5	2	93	97	↘
		54	43	3	0	97	97	→
18	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できている。	25	45	23	7	70	65	↗
		33	32	26	8	65	79	↘
19	お子さんは、スマホやインターネットを利用する時、家庭で決めた約束事（使用時間やフィルタリング等）を守り、適切に利用していると思う。	17	37	35	12	53	61	↘
		43	43	10	4	86	92	↘
20	コロナ禍の中、学校行事等の時期や内容の変更、PTA活動の制限等がある中で、感染防止対策を行い、できる範囲で工夫して実施できている。	48	50	2	0	98	93	↗
		65	33	1	0	99	99	→
21	学校は、家庭や地域、小学校等と連携し、活動していると思う。	32	53	13	2	85	92	↘

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・月1回、学校だより「協育」の発行。
- ・各学年だより（適宜）、学級だより（毎週）の発行。
- ・必要に応じて連絡網「マ・メール」を活用し、学校の判断事項や協力依頼、生徒たちの活動の様子などを配信し、タイムリーな情報共有。
- ・オンラインを活用した「新生説明会」の実施（東郷小・高崎小6年生向け）。
- ・「パワーアップ（生活習慣コントロール）」週間を、定期テストに向けた学習強化期間の年4回設定。
- ・校医・学校歯科医・学校薬剤師の声を反映した学校保健委員会の実施。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ホームページの更新が年度途中で止まっており、2や1の評価をしっかりと受け止めていく必要があります。
- ・教育環境の整備についても、昨年度より評価が下がっています。ICT活用の活性化や校舎

内の老朽化等を踏まえた修繕にも力を入れていく必要があります。

- コロナ禍にあり、地域とのつながりの強さという本地区の財産を利活用できず、本物に触れる学習や行事への貢献という点が不十分となりました。ただし、そのような中であっても、教育環境、教育資源に恵まれた地域であることに、生徒は誇りと感謝の気持ちをもっています。

【今後の方針や具体策について】

- ホームページの更新を常時行い、常に生徒の様子を発信できるように努めていきます。
- コロナ禍に対応しながら、生徒たちが地域に貢献していく活動を検討し、つながりを深めていきます（地域行事の実施可否により適切に対応）。
- これまで通り、地域資源を存分に活用し、地域の良さに気付かせ、より深く生き方について考えさせる活動にしていきます。さらに、市教育委員会による「特色ある学校経営」を活用し、市内工業団地など「地域資源を活かした学習」「総合的な学習」に取り組みながら「キャリア教育」へとつなげていきます。
- 生活習慣づくりは、メディアコントロールと密接な関係性があります。三中だけでなく、東郷小・高崎小との連携を大切にしていきます。「三中校区しこたん校友会」で共通の話題にして、指導と啓発を継続していきます。今年度、PTA研修部による「しこたん研修会」にて村山警察署生活安全課による講演を行いました。今後も専門機関と連携し、情報教育を継続していきます。
- コロナ禍であっても、学校行事等は中止・延期は可能な限り避け、実施方法の見直しを行うことで「子どもの姿」を通して頑張り伝えるようにしていきます。PTA学年総会や授業参観については、「3密」を避けるために分散する方法や、体育館などの広い場所で身体的距離を取るなど、安全・安心に実施できるように検討します。

◎ 2/21（火）に実施いたしました学校評議員会にて、以下のようなご意見も賜りました。

- コロナ禍のため、地域の様々な活動が中止となり、中学生が地域活動に協力いただけない現状が大変残念。「地域を思う・学校を思う」心は将来につながるもので、多感で感性が豊かなこの中学生の時に育まれるものであるため、本来であればもっと体験をさせてあげたいと思っている。
- 早寝・早起き・朝ごはんの数値が低いことが気になる。ある程度決まった時間に起きて、朝ごはんをしっかり食べることは、健康にかかわる非常に重要なこと。学校からも保護者に対して共通理解を得られるような働きかけが必要ではないか。
- 部活動改革により、令和5年度から任意加入になることにより、生徒同士のつながりや連帯感が薄くならないか不安である。部活動に対する考えは保護者によってもさまざまであり、よく話し合っってスムーズに改革を進めてほしい。
- ホームページの更新は、学校に足を運ばないこのご時世上、非常に重要なこと。負担はあるかもしれないが、担当を決めてしっかり更新してほしい。
- コロナ禍により、保護者と顔を合わせる機会が限られていることで、学校が信頼を失うことのないように、コミュニケーションをうまくとって進めてほしい。
- 学校評価において、同じ質問に対する保護者の数値より生徒の数値の方が高いことは、生徒は保護者が思うより学校に肯定感を持っている表れであり、前向きにとらえていいのではないかと解釈している。